

報道各位

～TOKYO FM 『MEDIA PRESENTATION 2015』実施のご報告～

リスナーの笑顔が見える！共感コミュニティ・ネットワーク

TOKYO FM では、当社をはじめとするネットワークのメディアパワーについてプレゼンテーションを行なう「TOKYO FM メディアプレゼンテーション 2015」を、本日 11 月 13 日(木)16 時 30 分より、ホテルニューオータニ「鶴の間」において開催致しました。広告主・広告会社・報道関係者など約 1300 名がご来場されました。

今年のプレゼンテーションテーマは、「リスナーの笑顔が見える！共感コミュニティ・ネットワーク」。
TOKYO FM は、ラジオの価値は、番組パーソナリティとリスナー、そしてリスナー同士をつなぐ「心の通ったコミュニティ」にあると考えます。民間放送連盟の調査によると、10代20代のラジオ接触者のうち、およそ8割が「ラジコ」や「ドコデモ FM」、「LISMO WAVE」などの IP サイマルでラジオを聴いた経験を持っています。本日のプレゼンテーションでは、こうした聴取環境の多様化に対応し、番組を軸にイベントやソーシャルメディアなどを有機的に組み合わせた“統合型メディアコミュニケーション”の企画事例をご紹介致しました。

また「アースコンシャス(地球を愛し、感じる心)、ヒューマンコンシャス(生命を愛し、つながる心)」のステーション理念に基づき、東日本大震災以降、継続してきた番組や活動、さらに今年9月にスタートした、人とペットの共生を考える「ペットフレンドリー・プロジェクト」もご紹介しました。また、2015年に誕生する「V-Low マルチメディア放送」の具体的なサービスイメージや最新の動向もご説明させていただきました。

プレゼンテーションの最後に、当社代表取締役社長・千代勝美が、来場者への御礼と共に、下記の内容を述べました。

『TOKYO FM は「感動を提供し、共感を得る」という変わらぬ理念のもと、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」、「ヒューマンコンシャス～生命(いのち)を愛し、繋がる心」、その実践に取り組み続けております。

IT のめざましい進展に伴い、生活者のコミュニケーション・スタイルは劇的に変化を続けています。

只今ご覧頂きましたように、アース&ヒューマンコンシャスをベースに、ターゲット・リスナーと真正面から向き合うコミュニケーションにより、良質な「Buzz」を起こすことをまず原点に置き、ソーシャルメディアとの連携をはじめ、様々なメディアを統合した、新しいコミュニケーション・デザインによる Buzz を拡散し、リスナーによる「共感の連鎖」を生み出すコンテンツ制作に日々取り組んでおります。

メインターゲットの M1F1 はもとより、プリスクールの子供と母親、中高生や大学生との共感コミュニティの形成にも取り組むことにより、次世代のリスナー創造をはかって参ります。

この共感コミュニティは JFN38 局が連携することで、全国に広がっていきます。そして当社のみならず、地方創生の時代に向けて、ネット各局発の地域色豊かなコンテンツを全国に発信することも強化しており、JFN ネットワークの価値向上に引き続き取り組んで参ります。

さて、当社はお陰様をもちまして来年 2015 年、開局 45 周年を迎えます。アース&ヒューマンコンシャスの実践を更に発展させると共に、オープン・イノベーションにより次世代に向けて、新しい挑戦を進めて参ります。

アジア諸国の FM ステーションと連携の絆を深めると共に、世界最大のインターネットラジオ・プラットフォーム『TuneIn』とも連携し、世界の若者と音楽や文化の相互交流を進めて参ります。

また、音声メディアの可能性を追求する中で、音声認知に及ぼす優位な点を脳科学的に立証すべく、金沢工業大学との産学共同研究を進めております。

「視覚」による認知より、むしろ「聴覚」による情報伝達が、認知や記憶に関して優位な点を明らかにし、番組や CM のクリエイティブ開発につなげて行きたいと考えております。来年、皆様にその研究成果をご報告できればと思います。

そして、オープン・イノベーションとして放送新時代への大きなチャレンジが、来年からスタートする「V-Low マルチメディア放送」です。

7月に総務大臣よりハード事業者の認定を受け、ただ今ソフト事業者の申請準備を進めております。

現在、日本の通信トラフィックは、コンテンツの大容量化等に伴い急増しており、輻輳の問題が常につきまっています。

V-Low では輻輳なく IP データを放送波で届けることが出来ますが、これは特に災害時に有効です。

自然災害が各地で多発する中、V-Low は安全・安心の社会インフラとしての使命を果たして参ります。

この他にも、通信の下りを V-Low に置き換えることによる、リアルタイムでプッシュ型の一斉同報配信手段により、音声自動認識によるテキスト配信や、自動翻訳による多言語配信など、2020 年、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、これからの時代に様々なシーンでの活用方法が考えられます。

車載型受信端末に向けた、広域同報配信により、リアルタイムに交通関連情報や、地域観光情報を配信するなど、テレマティクスを更に進化させることが可能になります。

また、音楽産業におきましては、「ハイ・レゾリューション」のマーケット拡大が注目を集めていますが、V-Low で、はじめてハイレゾ級音源を放送でお楽しみ頂けるだけでなく、通信サービスと融合させた配信プラットフォームで楽しみ方が無限に広がります。

V-Low を、真の「放送と通信の融合」を具現化することができる革新的な仕組みとして花を咲かせるよう、JFN38 局一丸となってパートナー企業の皆様と共にチャレンジして参ります。」

以上